

## 第4学年 算数科学習指導案

児童 4年1組(男子13名 女子15名 計28名)  
授業者 チャレンジコース 戸来 律子  
しっかりコース 中野 裕一

児童 4年2組(男子15名 女子14名 計29名)  
授業者 チャレンジコース 稲垣 舞子  
しっかりコース 中野 裕一

### 1 単元名 わり算の筆算を考えよう

### 2 単元について

整数の除法の計算は、除数が1位数の場合については第4学年第3単元で一通り完成している。本単元は、除数が2位数で被除数が2,3位数の計算方法を学習する。初めに、仮商を求めるときに必要な(何十)÷(何十)、(何百)÷(何十)などの計算を暗算で処理する方法を扱う。次に、除数が(何十何)の計算を筆算で処理する方法を扱う。ここでは、除数の見方によって過大商になったり過小商になったりしても、その場にふさわしい方法で商を修正することを学習する。さらに、除法の性質として、 $a \div b = (a \times c) \div (b \times c)$ 、 $a \div b = (a \div c) \div (b \div c)$ を具体的な数値とともに理解させる。この性質は、第5学年の小数の除法計算の基礎ともなるべきものである。本単元では、整数の除法の計算の一応の完成を図ることをねらいとしている。

児童は、3年生の頃から1C2Tや2C3Tの少人数指導で学習してきている。算数意識調査によると、問題を解いたり繰り返し練習したりするのは好きだが、やり方を説明するのはどちらかという嫌いな傾向にある。また、第3単元テストでは89.2%、一学期の計算力テストにおいては95.1%の正答率であった。除数が1位数の場合の筆算についてはよく習熟できているが、乗除混合・連除の立式やその計算、商に0がたつ場合の筆算について理解不十分な児童も見られる。

そこで、本単元の指導にあたっては、筆算の〈たてる〉〈かける〉〈ひく〉〈おろす〉の各段階の意味を十分理解できるようにするとともに、1位数でわる除法の計算方法を生かして2位数でわる計算を工夫して考えだせるようにしたい。そして、除数が何十に近いかを見て仮商の見当のつけ方を理解させ、できるだけ真商に近い仮商のたて方と確実なその修正ができるように習熟を図りたい。また、商のたつ位置の判断と、あまりと除数を比べてわり算を進めるべきかどうかの判断をしっかりとさせていきたい。そのために、除法の意味に立ち戻り、意味と形式のつながりを大切にしていきたい。さらに、検算の方法として被除数、除数、商、あまりの関係を調べ、乗法を含めて除法についての理解を深めていきたい。

### 3 単元の目標

筆算形式による2～3位数を2位数でわる除法計算のしかたについて理解し、それを適切に用いる能力を伸ばす。

〔関心・意欲・態度〕 ・除法が2位数の除法計算のしかたを、除法計算のしかたをもとに進んで考えようとする。

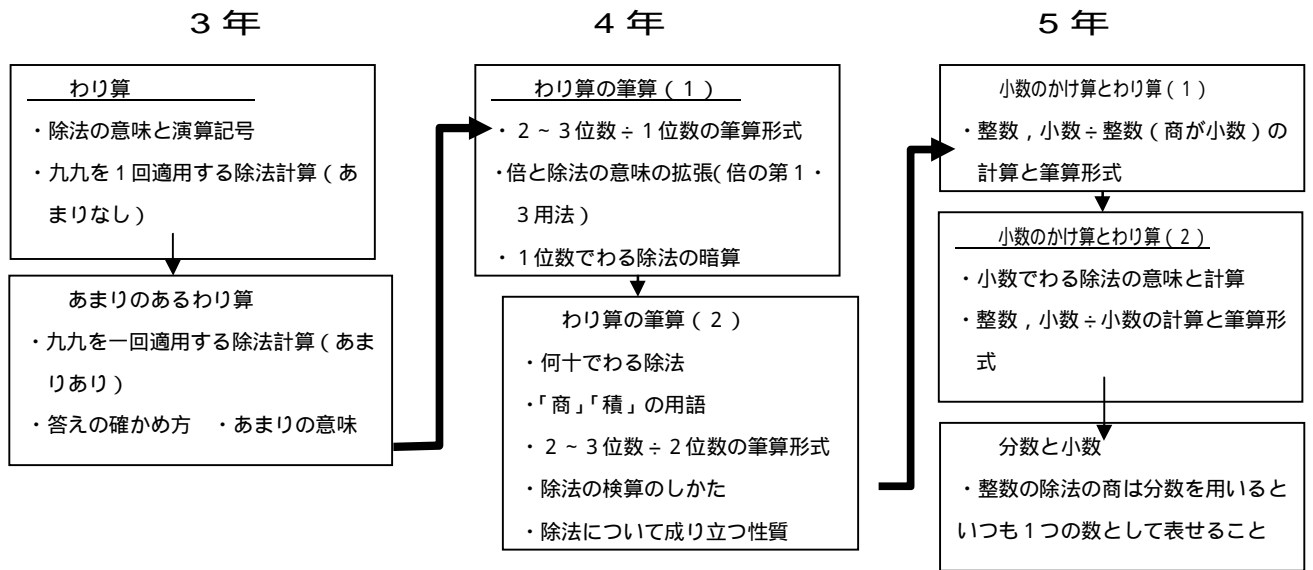
〔数学的な考え方〕 ・見積もりをもとに、仮商の立て方や修正のしかたについて考える。

〔表現・処理〕 ・除法が2位数の除法計算を筆算で正確にできる。

〔知識・理解〕 ・除数が何十の除法計算のしかたを理解する。

・除数が2位数の除法の筆算のしかたを理解する。

4 関連と発展



5 単元指導構想表 (別紙)

6 評価規準表 (別紙)

7 個への配慮

本単元では、概念形成や意味理解の段階では主にT Tの形態をとり、児童の様々な考えを交流させ学習の意欲を喚起させたい。また、商の見当をつけたり修正したりする段階では、初めての経験なので理解のしかたと習熟に差が出ると予想されるため、1 C 2 Tのコース別少人数指導を取り入れたい。

さらに 小単元の後に2 C 3 Tの少人数指導で 習熟の程度に応じた練習の時間を確保していきたい。コース選択については、まず児童がどのコースに行き学習したいのか希望を取り、その後、前時までの技能習得状況等の資料を基にそれぞれのコースにおいて難易度や問題数に配慮しながら個別指導も行っていきたい。

< 1 C 2 T >

少人数コース	児童の実態と手立て
しっかりコース	問題文の内容を読み取ったり、計算から正しい答えを導いたりすることが難しい児童が多い。したがって、問題文から立式するような場合は、図を手がかりに取り組みせたい。「たしかめる」段階では、ペア同士で確かめ自信を持って発表したり、自分の考えと比べながら聞いたりできるようにしていきたい。筆算では、必ずかけ算・ひき算の補助計算を行わせ、確実に答えを求めさせていきたい。練習問題にも数多く取り組ませることにより、できたことを賞賛し意欲面でも高めていきたい。
チャレンジコース	立式から計算まで自分の力で進めることができる児童が多い。しかし、自分の考えを皆の前で自信を持って説明できる児童は少ない。図や言葉、既習の計算方法などを手がかりとして自力解決をさせ、筋道立てて説明できる力を伸ばしていきたい。「ひろめる」段階では、例題や類題の解答を基にしながら、自分の力で数多くの問題に取り組みせるようにしたい。さらに、除法計算を速く確実に解くようにさせるとともに、発展問題に取り組みせ除法を用いる能力を伸ばしていきたい。

< 2 C 3 T >

少人数コース	児童の実態と手立て
しっかりコース	自力解決が困難な児童が多い。筆算の仮商の見当のつけ方や修正のしかたを振り返り、繰り返し練習させたい。
チャレンジコース	立式から計算まで自分の力で進めることができるが 速さや正確さにかける児童が多い。数多くの問題に取り組みせ、検算をしっかりと行うようにさせたい。
チャンピオンコース	学習内容がよく理解でき、意欲的に問題解決に取り組む児童が多い。応用・発展的な問題に取り組みせ、除法を用いる能力を伸ばしていきたい。

8 本時の指導 【6 / 15時】 - 4年1組

(1) 目標 2位数÷2位数の筆算で過小商をたてたときの仮商修正の意味とそのしかたを理解し、その計算ができる。

(2) 展開 (チャレンジコース)

段階	学習内容と活動	活動への支援・留意点	備考
つかむ 12分	1 問題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">78 ÷ 19の筆算の仕方を考えましょう。</div> ア 7をたてる。(除数10とみる) 2 課題をつかむ。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">ちょうどよい商のたて方を考えよう。</div>	・除数は何十に近いか注目させる。	(準) 掲示用紙板書 (問題)
みとおす 8分	3 解決の見通しを持つ。 ア わる数を20とみる。 4 自力解決する。 ア 3をたてる。(除数20とみる) イ 4をたてる。(仮商修正) ウ 4をたてる。(80÷20とみる)	・真商に近い仮商をたてるため、除数は何十に近いかに着目させる。 ・余裕のある児童には、考え方の説明をノートに書かせる。	(評) <表> A 除数の一の位を切り上げて商の見当をつけることができる。また、過小商の修正について説明することができる。 B 除数の一の位を切り上げて商の見当をつけることができる。また、過小商の修正ができる。
たしかめる 10分	5 各自の考えを発表し合う。 ア 仮商のまま イ 仮商修正 ・わる数の19を20とみる。 ・わられる数78と20を比べて商に3をたてる。 ・19と3の積を78からひくと21でまだひける。 ・商を1大きくする。 ウ 概数で計算	・仮商のたて方、修正のしかたを筋道立てて説明させる。 ・仮商修正をしないでいる児童には、除数とあまりを比べてわり算を進めるべきかどうか判断させる。	B 除数の一の位を切り上げて商の見当をつけることができる。また、過小商の修正ができる。
まとめる 5分	6 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">見当をつけた商が小さすぎた時は商を1大きくする。</div>		C 児への手だて 除数とあまりの大きさを比べ、たてた仮商を1大きくして修正を行うよう助言する。
ひろめる 10分	7 練習問題を解く。 ・教科書P18  ・計算スキル 8 次時の学習を知る。	・初めの1問は、みんなで解き方を確認する。 ・早く終わった児童には問題を用意しておく。 ・除数をいくつと見るかによって修正の回数が変わったことを話す。	(準) 計算スキル 学習プリント

(3) 評価

<表> 2位数÷2位数の筆算で過小商をたてたときの仮商修正の意味とそのしかたを理解し、その計算ができたか。

8. 本時の指導 【6 / 15時】 4年1組

(1) 目標 2位数÷2位数の筆算で過小商をたてたときの仮商修正の意味とそのしかたを理解し、その計算ができる。

(2) 展開 (しっかりコース)

段階	学習内容と活動	活動への支援・留意点	備考
つかむ 15分	1 問題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">78 ÷ 19の筆算の仕方を考えましょう。</div> ・計算の手順を確認する。 2 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">ちょうどよい商のたて方を考えよう。</div>	・7をたてると大きすぎることを理解させる。 ・除数の19を20とみて、3をたてて計算させる。	(準) 掲示用紙板書 (問題)
みとおす 5分	3 解決の見通しをもつ。 4 自力解決をする。		(評) <表> A 除数の一の位を切り上げて商の見当をつけることができる。また、過小商の修正について説明することができる。
たしかめる 5分	5 考えを発表する。 ア 商を小さくする。 イ 消して商を大きくする。 ウ ×をつけ、商を大きく直す。 6 計算のしかたを確認する。	・仮商のたて方、修正のしかたを説明させる。 ・正答例をCとする。 ・「まだひける」と「商をまだ大きくできる」を結び付けて教える。	B 除数の一の位を切り上げて商の見当をつけることができる。また、過小商の修正ができる。
まとめる 5分	7 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">見当をつけた商が小さすぎた時は商を1大きくする。</div>	・「まだひける」ということ、「商をまだ大きくできる」ということを結び付けて教える。	C 児への手だて 除数とあまりの大きさを比べ、たてた仮商を1大きくして修正を行うよう助言する。
ひろめる 15分	8 練習問題を解く。 ・教科書P18 ・計算スキル 9 次時の学習を知る。	・(1)(4)(6)をチェックする。この時間は、×をつけ、仮商修正したものを模範解答例とする。 ・わる数をいくつとみるかによって、修正の回数が違ってくることを話す。	(準) 計算スキル

(3) 評価

<表> 2位数÷2位数の筆算で過小商をたてたときの仮商修正の意味とそのしかたを理解し、その計算ができたか。

8 本時の指導 【7 / 15時】 4年2組

(1) 目標 除数を切り捨て、切り上げの両方による仮商修正のしかたを比較し、自分が考えやすい除数の処理のしかたを考えることができる。

(2) 展開 (チャレンジコース)

段階	学習内容と活動	活動への支援・留意点	備考
つかむ 5分	<p>1 問題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <math>87 \div 25</math> の筆算のしかたを考えましょう。         </div> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">           わる数が25のような筆算のしかたを考えよう。         </div>	<p>・おおよその答えを予想させる。 (4, 3, 2)</p>	<p>(準) ・掲示用紙板書 (問題)</p>
みとおす 8分	<p>3 解決の見通しをもつ。</p> <p>ア 25を20とみる。 (切り捨て) 4をたてる。</p> <p>イ 25を30とみる。 (切り上げ) 2をたてる。</p> <p>ウ 始めから3をたてる。</p> <p>4 自力解決をする。</p>	<p>・仮商修正できない子には個別支援を行う。</p>	<p>(評) 考 A 除数を適宜四捨五入するなど、適切な商をたてて計算できる。商が大きすぎたり小さすぎたりした場合も修正し、計算できる。</p>
たしかめる 12分	<p>5 各自の考えを発表し合う。</p> <p>ア (切り捨て) 4をたてる。商が4では大きいので、3にする。</p> <p>イ (切り上げ) 2をたてる。商が2では小さいので、3にする。</p> <p>ウ 25の3倍は75なので、3をたてる。</p> <p>6 過大商、過小商のやり方を比較する。</p>	<p>・どちらのやり方でも正しい答えを導くことができることを理解させる。</p>	<p>B 仮商修正のしかたを比較し、自分が考えやすい除数の処理のしかたを考え計算している。</p>
まとめる 5分	<p>7 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">           わる数の一の位が5の時は、大きくみても小さくみてもよい。         </div>		<p>C 児への手だて 「ひけない時は1小さくする」、「まだひける時は1大きくする」ように助言する。</p>
ひろめる 15分	<p>8 練習問題を解く。</p> <p>・教科書 P19</p> <p style="text-align: right;">P19</p> <p>・計算スキル</p> <p>9 次時の課題を知る。</p>	<p>・わる数の一の位が4, 6の問題にも触れ、どちらで解いても同じ結果になることにも触れさせたい。</p> <p>・早く終わった子には補充問題を用意する。</p>	<p>(準) 計算スキル 学習プリント</p>

(3) 評価

考 除数を切り捨て、切り上げの両方による仮商修正のしかたを比較し、自分が考えやすい除数の処理のしかたを考えることができたか。

8. 本時の指導 【7 / 15時】 4年2組

(1) 目標 除数を切り捨て、切り上げの両方による仮商修正のしかたを比較し、自分が考えやすい除数の処理のしかたを考えることができる。

(2) 展開 (しっかりコース)

段階	学習内容と活動	活動への支援・留意点	備考
つかむ 5分	<p>1 問題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <math>87 \div 25</math> の筆算のしかたを考えましょう。         </div> <p>2 課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">           わる数が25のような筆算のしかたを考えよう。         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時、前々時の活動を想起させ、2通りの何十のかたまりにもみることができることを理解させる。</li> </ul>	(準) ・掲示用紙板書 (問題)
みとおす たしかめる 15分	<p>3 わる数を20とみた場合を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>解決の見通しをもつ。</li> <li>自力解決をする。</li> <li>考えを発表する。</li> </ul> <p>『25を20とみて計算すると、ひけなくなったので商を1小さくして計算しました。』</p> <p>4 わる数を30とみた場合を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>解決の見通しをもつ。</li> <li>自力解決をする。</li> <li>考えを発表する。</li> </ul> <p>『25を30とみて計算すると、まだひけるので商を1大きくして計算しました。』</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つずつ解決し、比較する。</li> <li>どちらのしかたでも正しい答えを導くことができることをおさえる。</li> </ul>	(評) 考 A 除数を適宜四捨五入するなど、適切な商をたてて計算できる。商が大きすぎたり小さすぎたりした場合も修正し、計算できる。 B 仮商修正のしかたを比較し、自分が考えやすい除数の処理のしかたを考え計算している。
まとめる 5分	<p>5 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">           わる数の一の位が5の時は、大きくみても小さくみてもよい。         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わる数の1の位が4や6の場合でも同じことがいえることを教える。</li> </ul>	C 児への手だて 「ひけない時は1小さくする」、「まだひける時は1大きくする」ように助言する。
ひろめる 20分	<p>6 練習問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 P 19</li> <li>P 19</li> <li>計算スキル</li> </ul> <p>7 新たな課題を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒板を上下2段 4区切りに分け、解答を書かせる。</li> <li>どちらのしかたも答えは同じであることを再度確認する。</li> </ul>	(準) 計算スキル

(3) 評価

考 除数を切り捨て、切り上げの両方による仮商修正のしかたを比較し、自分が考えやすい除数の処理のしかたを考えることができたか。

5. 単元の指導構想表

第4学年「わり算のしかたを考えよう」単元構想表

小単元	何十でわる計算		2けたの数でわる筆算(1)			
時	1	2	3・4	5	6(4-1本時)	7(4-2本時)
目標	何十でわる計算(あまりなし)を理解し,その計算ができる。	何十でわる計算(あまりあり)を理解し,その計算ができる。	2位数÷2位数(仮商修正なし)の筆算の仕方を理解し,その計算ができる。	2位数÷2位数の筆算で過大商をたてたときの仮商修正の意味とそのしかたを理解する。	2位数÷2位数の筆算で過小商をたてたときの仮商修正の意味とそのしかたを理解する。	除数を切り捨て,切り上げの両方による仮商修正のしかたを比較し,自分が考えやすい除数の処理のしかたを考えることができる。
つかむ	1. 問題を把握する。 色紙が60まいあります。この色紙を1人に20まいずつ分けると,何人に分けられますか。 2. 課題をつかむ。 60÷20の計算の仕方を考えよう。	1. 問題を把握する。 90÷20の計算の仕方を考えよう。 自力解決 2. 課題をつかむ。 あまりのある計算のしかたを考えよう。	1. 問題を把握する。 色紙が87まいあります。1人に21まいずつ分けると,何人に分けられますか。 2. 課題をつかむ。 87÷21の計算の仕方を考えよう。	1. 問題を把握する。 86÷23の筆算の仕方を考えよう。 自力解決 2. 課題をつかむ。 ちょうどよい商のたて方を考えよう。	1. 問題を把握する。 78÷19の筆算の仕方を考えよう。 自力解決 2. 課題をつかむ。 ちょうどよい商のたて方を考えよう。	1. 問題を把握する。 87÷25の筆算の仕方を考えよう。 自力解決 2. 課題をつかむ。 わる数が25のような筆算の仕方を考えよう。
みとおす	3. 解決の見通しを持ち,自力解決する。 ア 図を使う。 イ 6÷2から推測する。	3. 解決の見通しを持ち,自力解決する。 ア 図を使う。 イ 9÷2から推測する。	3. 解決の見通しを持ち,自力解決する。 ア ひき算で考える。 87-21-21-21-21 イ たし算で考える。 21+21+21+21 ウ 検算のしかたを用いて考える。 21× = 87 = 4	3. 解決の見通しを持ち,自力解決する。 23をいくつとみるかを考える。 ア 4をたてる。(20とみる) イ 3をたてる。	3. 解決の見通しを持ち,自力解決する。 ア 7をたてる。(10とみる) イ 3をたてる。(20とみる) ウ 4をたてる。(20・80とみる)	3. 解決の見通しを持ち,自力解決する。 ア 4をたてる。(20とみる) イ 2をたてる。(30とみる) ウ 3をたてる。
たしかめる	4. 各自の考えを発表しあう。 ア 10の束6個,20ずつ分ける。 イ 6÷2の答えを出し,検算で確かめる。 5. 一人分の枚数を求める式とその根拠を考える。 ・60÷20の計算も10をもとに6÷2をもとにすれば求められる	4. 各自の考えを発表しあう。 ア 10の束9個を20ずつ分ける。 イ 9÷2の答えを出し,検算で確かめる。 5. 「商」「積」の用語を知る。	4. 各自の考えを発表しあう。 ア 87-21-21-21-21 4回引けてあまり3まい イ 21+21+21+21 4回足せて3まいあまる。 ウ 21× = 87 = 4+3	4. 各自の考えを発表しあう。 ア 商を小さくする。 イ 商を大きくする。	4. 各自の考えを発表しあう。 ア 商を小さくする。 イ 商を大きくする。	4. 各自の考えを発表しあう。 ア 商を小さくする。 イ 商を大きくする。
まとめる	6. 学習のまとめをする。 10をもとにして考えると,60÷20の答えは,6÷2の答えと等しくなります。	6. 学習のまとめをする。 10をもとにして考えるので,90÷20の答えは,4あまり10です。	5. 学習のまとめをする。 ・87÷21は80÷20とみて商の見当をつける。 ・87÷21の筆算のしかた「たてる」「かける」「ひく」	5. 学習のまとめをする。 見当つけた商が大きすぎたときは商を1小さくする。	5. 学習のまとめをする。 見当つけた商が小さすぎたときは商を1大きくする。	5. 学習のまとめをする。 わる数の1の位が5の時は大きくみても小さくみてもよい。
ひろめる	7. 練習問題を解く。 8. 次時の学習を知る。	7. 練習問題を解く。 8. 次時の学習を知る。	6. 練習問題を解く。 7. 次時の学習を知る。	6. 練習問題を解く。 7. 次時の学習を知る。	6. 練習問題を解く。 7. 次時の学習を知る。	6. 練習問題を解く。 7. 次時の学習を知る。
課題解決のポイントとなる基礎的事項	・九九を使ったわり算ができる。 ・10の束で考えることができる。 ・100の束で考えることができる。	・九九を使ったわり算ができる。 ・10の束で考えることができる。 ・100の束で考えることができる。	・10,100の倍数を一位数でわる除法計算の仕方を理解する。 ・おおよその数でみることができる。	・大きい位から商を考えることができる。 ・おおよその数でみることができる。 ・2位数÷1位数の筆算ができる。	・大きい位から商を考えることができる。 ・おおよその数でみることができる。 ・2位数÷1位数の筆算ができる。	・大きい位から商を考えることができる。 ・おおよその数でみることができる。 ・2位数÷1位数の筆算ができる。
学習形態	T・T	1C2T	T・T	1C2T	1C2T	1C2T

小単元	2けたの数でわる筆算(1)			2けたの数でわる筆算(2)		わり算のきまり		まとめ					
時	8		9	10・11		12		13					
目標	3位数÷2位数=1位数の筆算の仮商のたてかたを理解し、その計算ができる。		学習内容を習熟する。	3位数÷2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。		商に0がたつ場合の簡便な筆算のしかたを理解する。 学習内容に習熟する。		除法について成り立つ性質を理解する。		末尾に0のある除法の簡便な計算のしかたと、あまりの求め方を理解する。	学習内容を習熟する。	補充練習	
つかむ	1. 問題を把握する。 $317 \div 32$ の筆算のしかたを考えましょう。 自力解決 2. 課題をつかむ。 $\text{何百} \div \text{何十}$ の計算のしかたを考えよう。		1. 課題をつかむ。 わり算の問題を速く正しく解こう	1. 問題を把握する。 色紙が345まいあります。この色紙を2人で同じ数ずつ分けると、1人分は何まいになりますか。 2. 課題をつかむ。 $345 \div 21$ の筆算のしかたを考えよう。		1. 問題を把握する。 $941 \div 23$ の筆算のしかたをくふうしましょう。 自力解決 2. 課題をつかむ。 工夫した計算のしかたを考えよう。		1. 問題を把握する。 色紙が150まいあります。この色紙を1人に50まいずつ分けると何人に分けられますか。 2. 課題をつかむ。 $\div = 3$ となる式を考えよう。		1. 問題を把握する。 $2700 \div 400$ の筆算のしかたをくふうしましょう。 自力解決 2. 課題をつかむ。 わる数とわる数に0の多い計算のしかたを工夫しましょう。		1. 課題をつかむ。 わり算の問題を速く正しく解こう	
みとおす	3. 解決の見通しを持ち、自力解決する。 ア 10をたてる。 イ 9をたてる。 ウ 商が百の位に9をたてる。 エ 商が十の位に9をたてる。		2. 問題を自力解決する。 (1) 筆算形式に書き直し、検算の練習をする問題 (2) 包含除であまりのある問題。 (3) 倍を求める問題	3. 解決の見通しを持ち、自力解決する。(途中まで、おおよそでよい) ア 10のたばで考える。 イ $340 \div 20$ と考える。 ウ 既習の「たてる」「かける」「ひく」「おろす」で計算する。		3. 解決の見通しを持ち、自力解決する。 ア 21を23では割れないので0をたてる。		3. 解決の見通しを持ち、自力解決する。 「 $\div = 3$ 」となる式を数多く作り出す。		3. 解決の見通しを持ち、自力解決する。 ・前時の計算を利用し、筆算を進める。 ・あまりの処理の仕方を考えさせる。		2. 問題を自力解決する。 (1) 計算の誤りを修正する問題 (2) 商のたつ位置の理解をみる問題	
たしかめる	4. 各自の考えを発表し、検討しあう。 ウ、エの商の空位の処理		(3) 練習プリントドリル	4. 各自の考えを発表しあう。 ア 一人に10まいはいきそうだ。 イ 1がたち、あまり13 ウ 既習の「たてる」「かける」「ひく」「おろす」で計算する。		4. 各自の考えを発表しあう。 ・0をたてて計算を進める。 ・途中を省略する。		4. 各自の考えを発表しあう。 5. 共通点を探し関係を考える。		4. 各自の考えを発表しあう。 ・前時の計算を利用し、筆算を発表する。 ・あまりの処理の仕方を発表する。		3. 練習プリントドリル	
まとめる	5. 学習のまとめをする。 商をたてる時には位置に気をつける。			5. 学習のまとめをする。 何百÷何十の計算も商のたつ位置を考えながら「たてる」「かける」「ひく」「おろす」で計算を進めます。		5. 学習のまとめをする。 わる数より小さくなったら、0をたて、とちゅうをはぶくことができます。		5. 学習のまとめをする。 わり算では、わる数とわる数に同じ数をかけても、また、わる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わりません。		5. 学習のまとめをする。 わる数とわる数の0を同じ数ずつつけて計算をすすめることができます。また、あまりにはけた0をつけて考えます。			
ひろめる	6. 練習問題を解く。 7. 次時の学習を知る			6. 練習問題を解く。 7. 次時の学習を知る。		6. 練習問題を解く。 7. 練習をする。 (1) 3位数÷2位数=2位数 (2) 検算の関係を用いてある数を見つける問題 (3) 倍を求める問題 8. 次時の学習を知る。		6. 練習問題を解く。 7. 次時の学習を知る。		6. 練習問題を解く。 7. 次時の学習を知る。			
課題解決のポイントとなる基礎的事項	・3位数÷1位数=3位数(空位を含む、及び百の位や十の位でわり切れる)の筆算の仕方を理解している。 ・おおよその数でみることができる。			・簡単なかけ算わり算を正確にできる。		・ある数字を1のかたまりとして考えることができる。 ・比べる数と比べられる数が分かる。 ・簡単なかけ算わり算を正確にできる。		・ある数字を1のかたまりとして考えることができる。 ・比べる数と何倍にあたる数が分かる。					
学習形態	1 C 2 T		2 C 3 T	T・T		T・T		1 C 2 T		1 C 2 T		2 C 3 T	



## 6 評価規準表

### 7. わり算の筆算を考えよう

10月下旬～11月下旬 15時間 下p.13～26

【単元の目標】 筆算形式による2～3位数を2位数でわる除法計算の仕方について理解し、それを適切に用いる能力を伸ばす。

- 除数が2位数の除法計算のしかたを、既習の除法計算のしかたをもとに進んで考えようとする。
- 見積もりをもとに、仮商の立て方や修正のしかたについて考える。
- 除数が2位数の除法計算を筆算で正確にできる。
- 除数が何十の除法計算のしかたを理解する。
- 除数が2位数の除法の筆算のしかたを理解する。

時	目 標	学 習 活 動	鑑	おもな評価規準	具 体 の 評 価 基 規 準		
(1) 何十でわる計算 2時間 下P13～14					十分満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	努力を要する(C) ほぼ断られる種へ昇る
1	何十でわる計算(あまりなし)を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立式する。</li> <li>・<math>60 \div 20</math>の計算のしかたを考える。</li> <li>・<math>60 \div 20</math>の計算のしかたをまとめる。</li> <li>・上記の型の計算練習をする。</li> </ul>	表	何十・何百何十÷何十の商が1位数になる暗算ができる。	除数・被除数とも10を単位として考えることができ、すばやく正確に暗算できる。	除数・被除数とも10を単位として考えることができ、暗算できる。	10を単位にまとめた色紙の束を分ける操作を行い、何十・何百÷何十の暗算のしかたを理解させる。
2	何十でわる計算(あまりあり)を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立式する。</li> <li>・<math>90 \div 20</math>の計算のしかたを考える。</li> <li>・「商」「積」について知る。</li> <li>・上記の型の計算練習をする。</li> </ul>	表	何十・何百何十÷何十の商が1位数(あまりあり)になる暗算ができる。	除数・被除数とも10を単位として考えることができ、すばやく正確に暗算できる。	除数・被除数とも10を単位として考えることができ、暗算できる。	10を単位にまとめた色紙の束を分ける操作を行い、何十・何百÷何十の暗算を理解させる。あまりが何十になることを教える。
(2) 2桁の数でわる筆算(1) 7時間 下P15～20							
3 ・ 4	2位数÷2位数(仮商修正なし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立式を考える。</li> <li>・<math>87 \div 21</math>の筆算のしかたを考える。</li> <li>・<math>87 \div 21</math>の筆算のしかたをまとめる。</li> <li>・<math>87 \div 21</math>の計算の検算を考える。</li> <li>・上記の型の計算練習をする。</li> </ul>	考	既習の1位数の除法から、2位数でわる筆算の仕方を考えることができる。	除数が被除数のいくつ分が商になるという筆算のしくみを利用し、除数が2位数の場合も同じように考えることができる。	除数が2異数になっているところに着目し、既習の1位数でわる筆算の仕方できそうだという見通しをもつことができる。	個別に指導しながら1位数でわる筆算をもとに、2位数で割る筆算の仕方を考えさせる。
5	2位数÷2位数の筆算で過大商をたてたときの仮商修正の意味とそのしかたを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>86 \div 23</math>の筆算のしかたを考える。</li> <li>・除数を20(切り捨て)とみて、商の見当をつける。</li> <li>・過大商(仮商修正1回・2回)の場合の修正のしかたを理解し、この型の計算練習をする。</li> </ul>	表	除数を何十ととらえ、仮商をたてることができる。	筆算のしくみが十分理解できており、過大商を修正することができる。	過大商を修正することができる。	被除数・除数を何十とみることができるよう指導する。(指でかくさせて考えさせる。)

6	2位数÷2位数の筆算で過小商をたてたときの仮商修正の意味とそのしかたを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・78÷19の筆算のしかたを考える。</li> <li>・除数を20(切り上げ)とみて、商の見当をつける。</li> <li>・過小商(仮商修正1回・2回)の場合の修正のしかたを理解し、この型の計算練習をする。</li> </ul>	表	見積もりにより仮商を立てたり、修正したりできる。	除数の一の位を切り上げて商の見当をつけることができる。また、過小商の修正について説明することができる。	除数の一の位を切り上げて商の見当をつけることができる。また、過小商の修正ができる。	除数とあまりの大きさを比べ、たてた仮商を1大きくして修正を行うよう助言する。
7	除数を切り捨て、切り上げの両方による仮商修正のしかたを比較し、自分が考えやすい除数の処理のしかたを考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・87÷25の筆算のしかたを考える。</li> <li>・除数を切り上げた場合と切り捨てた場合の筆算のしかたを比べる。</li> <li>・自分が考えやすい除数の処理の仕方を考える。</li> </ul>	考	過大商と過小商のそれぞれの仮商修正のしかたを比べている。	除数を適宜四捨五入するなど、適切な商をたてて計算できる。商が大きすぎたり小さすぎたりした場合も修正し、計算できる。	仮商修正のしかたを比較し、自分が考えやすい除数の処理のしかたを考え計算している。	「ひけない時は1小さくする」、「まだひける時は1大きくする」ように助言する。
8	3位数÷2位数=1位数の筆算の仮商のたてかたを理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・317÷32の筆算のしかたを考える。</li> <li>・上記の型の計算練習をする。</li> </ul>	表	3位数÷2位数=1位数の筆算ができる。	被除数が3桁でも商を正しく見当でき、商の立つ位置をまちがえずに計算できる。	被除数が3桁で、商の立つ位置をまちがえずに計算できる。	百の位から商が立つかどうかをたずね、正しい商の立つ位置を理解させる。
9	学習内容を習熟する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「練習」をする。</li> </ul>	表	2～3位数÷2位数=1位数の筆算ができる。	2～3位数÷2位数=1位数の筆算が正確にすばやくできる。	2～3位数÷2位数=1位数の筆算ができる。	個別に指導を行いながら2～3位数÷2位数=1位数の計算をさせる。
(3) 2桁の数でわる筆算 (2) 3時間 下p.21～23							
10・11	3位数÷2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立式を考える。</li> <li>・345÷21の筆算のしかたを考える。</li> <li>・345÷21の筆算のしかたをまとめる。</li> <li>・上記の型の計算練習をする。</li> </ul>	関	2位数でわって、商が1位数になる既習の計算と関係づけて計算方法を考えようとする。	商が2位数になっても、商が1位数の場合と同じにできると考え、商を立てる位置に見通しをもちながら解決しようとする。	商が2位数になっても、商が1位数の場合と同じにできると考え、取り組んでいる。	商が何の位から立つか問い既習の筆算と関係づけて考えてみるよう助言する。
12	商に0がたつ場合の簡便な筆算のしかたを理解する。学習内容を習熟する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・941÷23の筆算のしかたを考える。</li> <li>・上記の型の計算練習をする。</li> <li>・「練習」をする。</li> </ul>	表	3位数÷2位数=2位数の筆算ができる。	除数が2位数で商が2位数の除数の計算で、商に0が立つ場合などは、アルゴリズムを省略して簡潔に計算できる。	除数が2位数で商が2位数の除数の計算がアルゴリズムどおりにできる。	商の見当をたててやり、計算が適切にできるよう助言する。
(4) わり算のきまり 3時間 下p.24～25							
13	除法について成り立つ性質を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・150÷50=3と15÷5=3、30÷10=3の関係を調べて、除法の性質をまとめる。</li> </ul>	知	除法の性質を理解している。	10倍、10で割るという関係を素早く見ることができる。	除法の性質を理解している。	関係表をノートにまとめさせ、見ながら練習問題を解かせる。
14	末尾に0のある除法の簡便な計算のしかたと、あまりの求め方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2700÷400の計算のしかたを考え、末尾に0のある数の除法の簡便な計算のしかたと、あまりの求め方をまとめる。</li> </ul>	関	除数や被除数に同じ数をかけてもわっても商の数は変わらないという除法の性質が分かり、計算に生かそうとする。	除法の性質を利用して、除数・被除数の末尾の0を処理し、計算しようとしているとともに、余りの大きさにも着目し、余りの大きさと常数の関係に目を向けている。	除法の性質を利用して、除数・被除数の末尾の0を処理し、計算しようとしている。	10の束をもとに考えさせながら末尾0の処理の仕方を理解させる。
15	学習内容を習熟する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「たしかめ」をする。</li> <li>・〔チャレンジ〕世界の国々のわり算の筆算のしかたを比べる。</li> </ul>	知	除法の筆算の仕組みを理解している。	の問題を除法の筆算の仕組みをもとに誤りを素早く答えることができる。	の問題をノートに正しく計算し直すことができる。	の問題をヒントにしなが、正しく計算できるよう助言する。